

第二回 令和元年度奈良市指定管理者選定委員会会議録	
開催日時	令和元年 10 月 18 日（金） 午後 2 時から午後 3 時 30 分まで
開催場所	奈良市役所 北棟 6 階 第 17 会議室
出席者	委員 萩原委員、青木委員、佐野委員、中川委員、増田委員
	事務局 池田文化振興課長、川井課長補佐、小谷総務係長、大西
開催形態	公開
議題	1 書類審査（入江泰吉記念奈良市写真美術館、名勝大乘院庭園文化館、奈良市杉岡華邨書道美術館） 2 候補者選定
決定事項	<ul style="list-style-type: none"> ・一般財団法人奈良市総合財団を入江泰吉記念奈良市写真美術館の指定管理者の候補者として選定することを決定 ・株式会社奈良ホテルを名勝大乘院庭園文化館の指定管理者の候補者として選定することを決定 ・一般財団法人奈良市総合財団を奈良市杉岡華邨書道美術館の指定管理者の候補者として選定することを決定
添付資料	・採点集計表
議事の内容	
1. 書類審査	
入江泰吉記念奈良市写真美術館、名勝大乘院庭園文化館、奈良市杉岡華邨書道美術館について書類審査を行った。	
【入江泰吉記念奈良市写真美術館】	
（委員）	市民サービス向上に向けた方策について、利用者のニーズを把握するためにアンケートを実施すると記載しているが、これから実施するのか。
（事務局）	既に実施している。
（委員）	どういった希望があるのか。
（申請者）	展覧会ごとに実施しているが、入江氏の展覧会を希望する方は多い。日本国内で活躍されている写真家や若い写真家の作品を観たいという方も多数いる。割合としては半々ぐらいと認識している。
（委員）	それらの希望に基づいて次年度の計画を立てているのか。
（申請者）	その通り。
（委員）	入江泰吉旧居との関連は具体的に何かあるのか？
（申請者）	連携としては、写真美術館で収蔵している作品を旧居に展示している。また、相互に紹介するなど、ともに足を運んでいただけるよう工夫している。
（委員）	今後様々な取り組みを行っていく中で、専門的な職員の配置が必要と思われるが、どう考えているのか。
（事務局）	職員の配置については事業計画書の中の職員配置計画に記載しているが、学芸員 1 名、技術員 1 名の配置を計画されている。
（委員）	写真に特化した職員か、博物館的な学芸員かどちらか。
（事務局）	それぞれ 1 名ずつを計画している。

(委員)	職員の配置について、事業計画書の人数と収支予算書の指定管理料の人件費の積算人数と差異があるがどういうことか。
(申請者)	館長、事務長、総務グループの事務員 3 名、学芸グループの学芸員 1 名、技術員 1 名、事務員 1 名の計 8 名が指定管理料の人件費の積算となっている。パートタイム職員のうち 2 名は嘱託職員として積算、残りは自主事業での積算となっている。
(委員)	入江氏の作品はどれくらい所蔵されているのか。
(事務局)	正確な数は把握できていないが、フィルムが 10 万点以上あると思われる。
(委員)	それだけの数であると保存計画が重要と思われるが何か考えているのか。
(事務局)	保存計画については重要な案件と認識しており、2 年前にデジタルアーカイブ化のための機材を購入し、順次データ化・リスト化を進めている。
(委員)	順次ということだが、事業計画書に挙げている保存管理事業はどのようなスケジュールで考えているのか。
(申請者)	人員を全て保存管理事業に割くことはできないため、仕事の合間を縫って取り組んでいる。まずは、フィルムを複写してデータ化する作業を技術員が行っている。
(委員)	百々俊二氏が館長に就任され、新たな客層が定着しつつあるとあるが、新たな事業を実施されたのか、写真学校の生徒と連携されたのか、具体的にどういった層がどういった方法で定着したのか？
(申請者)	若い客層の確保のため、入江氏と若い人が見たいと思える展覧会の同時開催を行った。
(委員)	資料閲覧室の活用について、今は実施しておらず今後新たに実施するということか。
(申請者)	開館以来ずっと実施している。
(委員)	利用者の実数等は把握されているのか。
(申請者)	フリースペースとなっているので具体的な数値は把握していない。毎年新刊本を購入するなど常にお客様が入っていただけるよう空間づくりを行っている。
【名勝大乘院庭園文化館】	
(委員)	庭園の学術面をテーマにした庭園研究講座を開催することのだが、全国的な組織の誘致をされているのか、どういった方を対象としているのか。
(申請者)	ほとんどが奈良文化財研究所を中心に開催している。研究所に講師の依頼も行っており、そこから紹介で大学の講師の方を紹介されたりもしている。参加者は高齢でお庭に興味のある方やお庭の仕事をしている方などがおられる。定員は 20 名だが多い時は 30 名近くの参加者がいる。その場合は抽選となる。定員を大きく上回ることも下回ることも過去にはない。
(委員)	他とは違う魅力がある場所とあるため、研究者を対象とした講座でもやっていけると思われる。全国的にアピールできる素材にもなりうるのではないか。

(申請者)	昨年は庭園学会と造園学会が当庭園の見学に来られ会議を開催された。こちらが誘致したのではなく先方から申出があった。こういった見学は奈良文化財研究所から紹介される場合もある。
(委員)	庭園と研究所と奈良ホテルでのコンベンションなども考えられるため、素敵な研究の場となればよいと思う。
(委員)	入館者数の減少の原因と対策は？
(申請者)	入館者数は減少しているが、事業自体の参加者数は増えているため原因の把握に苦慮している。昨年は夏季に猛暑日が続いたことが一つの要因ではないかと考えている。また、これまで事業のチラシは作成していたが、庭園を案内するチラシはなかったため、今年10月新たに作成した。近鉄奈良駅などを見ると依水園などは非常に手取りやすいチラシを設置されている。経費は日本ナショナルトラストに負担いただいた。
(委員)	団体の自主事業について、奈良ホテルのおもてなしを演出するとあるが、これは奈良ホテルの中で何か実施するということか？
(申請者)	JR 西日本が駅ごとに交通費と奈良ホテルのランチ、当庭園の入園料をセットで販売している。奈良ホテル創立110年、JRも大阪駅まで直通が開通したことを記念し、今年から力を入れており、本来春1か月のみの販売を3か月に延長し、秋からも販売を予定している。これにより春は300名ほど入園者数が増加した。これからもグループとして販売促進に努めたい。
(委員)	指定管理料の提案額が前年度を超えているが、その理由は？
(申請者)	貸館の中で展示室は利用率が高いが、和室・茶室・会議室の利用率が低い ため、椅子とテーブルを設置するなど、これまでに加えプラスアルファの 利用ができるように環境整備を行うための経費が発生している。
(事務局)	市の要望でもあるため、奈良ホテルと協議し100万円の事業経費を提案 いただいている。
(委員)	館の土地は奈良市、庭園はJR西日本のものか？庭園の管理は日本ナショナル トラスト？
(事務局)	その通り。
(申請者)	庭園の2割が奈良市、8割がJR西日本となっている。
(委員)	土地を使用する際の金銭はどうなるのか？
(事務局)	協議会で検討を行う。
【奈良市杉岡華邨書道美術館】	
(委員)	産官学の連携がよく言われるが、奈良教育大学では海外から書道を学ぶ 学生を受け入れており、連携しやすい状況があると思われる。
(申請者)	学芸員実習などの受け入れは行っているが、展示については現役の書道作 家の方を中心としてきたため具体的な連携は行ってきていないが、これか らは学生と協力して展覧会ができるよう検討しているところである。
(委員)	大学側はそういった事業体を求めているため、うまく連携をとって活動を アピールしていただきたい。

(委員)	利用者の苦情で一番多いものは？その対策は？
(申請者)	ほとんど苦情はないが、道が分かりづらいと言われることがある。できるだけ沿線沿いにチラシ・ポスターを掲載したり、電話で受けた場合は観光案内所などの分かりやすい場所を紹介するなど、できるだけトラブルが起こらないよう心掛けている。
(委員)	せっかく来館しようと思っていただいているのだから、可能な限り分かりやすい表示を検討してほしい。
(申請者)	高齢の方が多く、全国から訪れるので奈良の地理を理解していない方がこういった意見を持たれる印象がある。全体としては数は多くないので都度丁寧に対応したい。
(委員)	チラシやホームページ等の広報媒体は職員が自作されているとのことだが、自己評価としてどう捉えているか。
(申請者)	比較的好評をいただいている。過去の取り組みや分かりやすい地図を掲載している。
(委員)	今後の課題について、インバウンド対策として具体的にはどう考えているのか？
(申請者)	英語表記のものを増やして解説しやすくしたり、ホームページも同様の案内を増やしたい。他にもインスタグラムなどの SNS を活用し、来館された方に発信してもらおうなどできればと考えている。
(委員)	役員の中にも書道界において高名な方も見受けられるが、こういった方々との関わりはどの程度あるのか。受け身ではなく、積極的な働きかけが必要と思われるがどう考えられるか。
(申請者)	委員の佐伯先生は新たに当館の館長に就任いただき、高木先生についても事業へのアドバイスをいただいている。それぞれ各会派に働きかけてもらうなど、協力いただいている。
(委員)	観光客増加もよいが、市民の文化振興という観点で何度も足を運んでいただくための工夫はどう考えているか？
(申請者)	杉岡氏の作品を保存公開することが前提となるが、企画展を少しでも増やし、目新しいものに触れる機会を増やしたいと考えている。現在は、千葉県成田山にある美術館と連携した展覧会を開催している。今回は伊藤博文など歴史的に著名な方の作品を展示するなど、書道のハードルを少しでも下げ、より多くの市民の方に足を運んでもらえるよう工夫をしている。
(委員)	子ども向けのクイズ企画や筆書き体験にはどれくらいの方が来られたのか？
(申請者)	クイズは夏休みに実施している。以前は付き添いの方も観覧料を減免していたため 200 名ほど参加者がいたが、現在減免を実施していないため数十人程度の参加となっている。
(委員)	世代が若くなればなるほど書き文字に触れる機会は少ないと思われる。子どもたちに書道文化に伝えることは、杉岡氏を顕彰するにあたってのベースとなる重要な美術館の役割と考える。奈良教育大学との連携について

	<p>も、学生たちはいずれ子どもたちを指導する立場となるので、そこに当館の素晴らしさを伝え新たな取り組みをしていただきたい。事業計画書を読んだが、その部分が物足りないと感じた。</p> <p>また、奈良は日本の墨文化の中心といえるが、墨のメーカーとの連携はないのか。これは奈良市に言うべきかもしれないが、今後はそういう取り組みも必要なのでは。写真であれば若い世代はインスタグラムなどで映像は溢れているが、手書きの文字に触れる機会は非常に減っているため、墨のメーカーも危機感を持っているのでは。奈良の持つ資源を集約して墨を使って文字を書くということをアピールできないか。</p> <p>(委員) 筆も同じく奈良の文化である。</p> <p>(申請者) 墨のメーカーには講座でお話いただいたり、小学校の課外事業でメーカーの社長に墨の作り方を教えてもらったりはしている。市教育委員会を通しての連携となると少しハードルが高い部分がある。</p> <p>(委員) わらべうたなどで連携している下北山村は、杉岡氏の出身地であり、県内で離れた場所にあるが、特殊な例といえる。奈良で知られている文化を改めて下北山村に向けて発信していく、あるいは下北山村の子どもと奈良市の書道連携プログラムなどは杉岡氏の書道美術館だからできることだと思う。固定観念に捉われず広い意味での交流を考えていただき、若い人を取り込む新たな取り組みを進めていただきたい。</p>
<p>2. 候補者選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般財団法人奈良市総合財団を入江泰吉記念奈良市写真美術館の指定管理者の候補者として選定することを決定した。 ・ 株式会社奈良ホテルを名勝大乘院庭園文化館の指定管理者の候補者として選定することを決定した。 ・ 一般財団法人奈良市総合財団を奈良市杉岡華邨書道美術館の指定管理者の候補者として選定することを決定した。 	